

令和7年度以降中学校使用教科用図書採択結果及び理由一覧表

種目名	発行者略称	採 択 理 由
国 語	光村図書	各單元には「言の葉ポケット」として着目すべき語彙が示されており、語彙を増やし、語感を磨くための工夫がされている。「学びへの扉」として、単元の学習の流れが掲載され、見通しをもって主体的に学ぶことができるようにされている。単元末の「振り返る」では、身に付けた力や足りない力を見つけて次の学びへつなげることができるように「知る」「話す・聞く・読む」「つなぐ」の3観点で評価できるように工夫されている。「学びのカギ」のページでは、基礎的・基本的な読みの方法、話したり、聞いたり、書いたりするための観点がまとめられている。ページ上部のインデックス型のマークには他單元との関連や系統、ページ数が記載されており、復習や見通しをもつための工夫がある。また、「学習で用いる言葉」も解説付きで掲載されており分かりやすい。生徒タブレットやパソコンの使用が効果的と思われる場面には「ICT活用のヒント」のアイコン表示がある。
書 写	光村図書	毛筆の筆使いを「トン、スー、トン」などのリズムでつかむことができる。また、筆圧を1～3の力に分けて、図で説明しているので、書くときの力の入れ具合がイメージしやすく、筆づかいがわかりやすい。QRコードで書き方の動画、片づけ方の動画や参考資料等を見ることができ、生徒の主体的な学びの助けになる。「漢字を分解してみよう」という見出しで、9つの点画の種類を示したり、「行書のスイッチを入れよう」の見出しでは行書の特徴を4つのスイッチで表したりと生徒が興味を引く内容で、生徒の思考過程に沿いながら学習内容を分かりやすく説明している。3年時の導入に、漫画で手書きの良さが記載されており、1年時2年時の学習を振り返る契機とすることができ、既習の内容を日常生活に生かす單元として意識させやすい。
社 会 (地理)	帝国	全ての単元に「学習課題」が設定されているため、生徒は学習の見通しがつきやすい。単元を通した問いが設定されており、知識や技能を、言語活動を通して生かせる單元構成となっている。QRコードも豊富であり、家庭学習で復習がしやすい。また、小学校の復習も収録されている。色が鮮やかで、標高や土地の標高の利用が分かりやすい。
社会 (歴史)	東京書籍	授業の興味関心を引き出す大きな「導入資料」、本時の学習について見通しをもたせるための「学習課題」、分かりやすい文章で書かれた「本文」、学習の振り返りとしての「チェック&トライ」の流れで構造化がなされ、学習内容の習得ができるように工夫されている。各章の終末部では、「ウェビング」や「ステップチャート」などの多様な思考ツールを活用して学習内容を考察する「まとめの活動」が設けられており、深い学びが実現されるよう工夫されている。小学校、他教科、他の分野との関連項目が示されるなど、系統性や関連性に配慮している。グラフや地図の色分けが分かりやすく、カラーユニバーサルデザインに基づいた紙面づくりがされている。

<p>社会 (公民)</p>	<p>東京書籍</p>	<p>章の最初のページでは、QRコードから小学校や1・2年生の学習の振り返りができ、既習学習をこれからの学習につなげる工夫がなされている。教科書の下の方に「チェック」「トライ」が設けられ、文章の読み取りや表現力が向上できるように工夫されている。「もっと知りたい」というページには現在の世界情勢や社会情勢などの資料を載せている。</p>
<p>地図</p>	<p>帝国</p>	<p>地理的分野の学習構成と同じく、世界は州別、日本は地方別となっており、生徒にとって学習しやすい。歴史的分野で学んだ知識を生かし、理解を深めることができる。QRコードが豊富であるため、家庭学習で復習がしやすい。また、小学校の復習も収録されている。印刷が鮮明で分かりやすい。図が立体であったり、索引が明瞭だったりと分かりやすい。</p>
<p>数学</p>	<p>啓林館</p>	<p>ミスが多い重要な問題については、必ず、補充問題が付いており、QRコードを読み取ることで簡単に多くの類似の問題を解くことができる。章ごとに基本と応用の章末問題があり、基本的な内容の確実な習得が図られるようになっている。また、「学びをたしかめよう」では、QRコードを読み取ることで、解答だけではなく、学習内容を確認することができる。「説明しよう」や「話し合おう」などが設けられており、表現する力を育むものとなっている。導入段階で場面設定を行い、これから学習していく内容と、現実社会で目にする内容とをしっかりとリンクするような形で記載されている。</p>
<p>理科</p>	<p>啓林館</p>	<p>章末では「レビュー（ふり返ろう）」において、基礎基本の用語や内容を問題で確認できる。単元末では「学習のまとめ」において、重要語句や要点がイラストなどで分かりやすくまとめられている。また、チェックを入れながら確認でき、理解が不十分な場合は学習したページに戻れるようにページ数が記載されている。「疑問」「課題」「仮説」「計画」「観察・実験」「結果」「考察」「表現」の順に書かれており、探究的なながれで主体的な学びになるように促している。「つながる学び」ではこれまで学習したことを、また「つながる世界・発展」では学年の内容や高校の学習内容とのつながりが示されており、系統性を意識した構成である。</p>
<p>音楽 (一般)</p>	<p>教芸</p>	<p>知覚と感受との関わりについて考え、記入できるページが多く設定されており、「どのように歌いたいか」という思いや意図につなげることができるようになっている。巻頭に、各学年の生徒の興味や知識に適正なアーティストや演奏家によるメッセージが掲載されており、音楽の授業に興味をもつきっかけとなっている。日本歌曲に掲載している写真は、歌詞のイメージに即した大きな写真が用いられている。また、写真のみでは得ることができない風景動画や作曲された背景など、QRコードを読み込むことで大量の情報を得ることができる。それにより歌詞の内容をイメージしたり、歌唱表現を工夫したりする際の手掛かりになるようなものとなっている。</p>

<p>音楽 (器楽合奏)</p>	<p>教芸</p>	<p>各楽器の特徴や基本的な奏法を理解することができるように、分かりやすい写真と丁寧な説明文で示されているので習得が図られやすいものとなっている。「学びのコンパス」では、表現活動を通して、思考力・判断力を育む場面も設定されており、曲に対して自分の考えをもち、言語活動を通して器楽学習を深めることができる構成となっている。リコーダーで様々な旋律を演奏するページでは、ポップス、ジャズ、クラシック、オペラと幅広いジャンルの名曲が掲載され、自分が好きな曲を選んで演奏する事を通して、曲に親しむことができるようになっている。各楽器のページに QR コードが掲載されており、プロの演奏を見ることができたり、写真や動画で基本的な奏法の確認をすることができたりして、分かりやすい。</p>
<p>美術</p>	<p>日文</p>	<p>3年間の学びを3冊に分け美術1「見方や感じ方に気づく」美術2・3上「いろいろな見方や表現方法を学ぶ」美術2・3下「深く見詰め追求する」として学習指導要領に示された目標に沿って構成されている。観音開きのページを活用し、(立体的に「屏風」を鑑賞できる「風神雷神図屏風」「唐獅子図屏風」、巧みな彫りや摺りが味わえる「高精細印刷の浮世絵」「浮世絵っておもしろい」、細かな描写が実感できる。「原寸大図版」(美術1「グランド・ジャット島の日曜日の午後」「誕生」)等を掲載し、実感的理解をもとに生徒の対話が生まれる工夫がなされている。「学びのはじめに」という二次元 QR コードを読み込むことで、単元の導入が分かりやすくスムーズにできる。説明が端的にまとめられ、学習の見通しがつき、これから何を学ぶかが分かりやすい。視覚的にも工夫がされている。</p>
<p>保健体育</p>	<p>学研</p>	<p>章全体の目標や学習内容が明確に示されている。また、各小単元の冒頭に学習の課題やキーワードが示され、学習の見通しをもちながら学習できるよう工夫されている。更に、章のまとめの「振り返ろう」を用いて、個に応じた学習確認ができ、基礎的・基本的内容を習得できるよう工夫されている。各小単の「ウォームアップ」では、身近な事例から学習する課題を考えることができるように工夫されている。各小単元において、「わかる」「考える」の観点から学習の課題が明記されており、本時の課題をひと目で捉え、主体的に取り組むことができるよう工夫されている。</p>
<p>技術・家庭 (技術分野)</p>	<p>開隆堂</p>	<p>身近な例を取り上げて技術の役割、技術の仕組み、技術の見方・考え方を丁寧に図解し、生徒が学習のポイントをつかみやすく、主体的にスキルを習得しやすく、興味をもちやすい内容になっている。問題解決の流れが、生徒の学習活動やワークシートの例などで具体的に示されており、分かりやすい。学習活動と一体化したデジタルコンテンツが用意されており、二次元コードを読み取ると見られるようになっており、多面的な考察ができ個別の学習の最適化につながる。</p>
<p>技術・家庭 (家庭分野)</p>	<p>開隆堂</p>	<p>教科書の配列は、学習指導要領と同じ内容構成になっている。「ロールプレイング」や「話し合ってみよう」などの言語活動を通して、習得した知識を実生活に生かせる題材構成になっている。保育分野では、保育園・幼稚園体験実習に向けて基礎基本を押さえてから体験実習、体験後のレポートまとめという流れで展開しやすい構成になっており、生徒の思考過程にあったものとなっている。</p>

英語	開隆堂	<p>文法導入の Scenes では、身近な話題と吹き出しにセリフを入れることにより、目的・場面・状況が明確になっている。また、右ページの「聞く」「話す」「書く」活動では、新出文法を定着させ、更に、左下の Small Talk で言語活動を繰り返し、基礎的な知識や即興性を身に付けることができる。本文内容ともリンクしているので、スムーズに内容理解が行えると考えられる。各 Program 「こんな表現ができる！」では、イラスト入りで単元ゴールが示されており、どんな力をつけるべきかが明確であるため、見通しをもって学習に取り組める。「教科書の構成」では、3年間を見通したプロジェクトゴールの位置づけや付きたい力が示されている。活動の目標やそれを達成するための活動の目的意識を明確にすることで、学習意欲を高めることができる。また、プロジェクトゴールも、1年時はスピーチ、2年時はプレゼンテーションやチラシ・広告作り、3年時は、ポスターセッションやディベートへと難易度が上がっていくのを可視化しながら、活動に取り組めるよう示されている。</p>
道徳	日文	<p>各教材のはじめに QR コードが掲載されており、動画や思考ツールに工夫が見られ、内容項目の理解に役立っている。ノートが準備されており、ワークシートが準備できていなくても授業ですぐ使える。また、毎時間の振り返りや学期ごとの振り返りができる。登場人物がタイトルの下に示されており、あらすじや内容理解をするのに効果的である。</p>

【中学校】